

枝豆の販売額が2年連続で1億円を達成

1月21日(火)、枝豆の実績検討会と栽培講習会がアキタパークホテルで開かれました。令和元年度の販売額が前年度比103・4%の1億366万円となり、2年連続で1億円を超えたことが報告されました。

今年度の栽培面積は同比3・7ヘクタール増の72・7ヘクタールで、7月から10月にかけて同比117%の175・8トンを出荷しました。平成29年から取り組んでいる「今朝採りたての枝豆」の販売額は同比136・2%の1036万円と、消費者や量販店に定着して安定販売に繋がったことで、販売開始からはじめて1000万円を達成しました。

令和元年度の生育経過を振り返る生産者

1月23日(木)、追分生活センターでネギの実績検討会が開かれました。生産者や関係者約70名が参加し、令和元年度の販売実績が報告されました。

今年度管内では、昨年度から12・8ヘクタール増加した57・8ヘクタールで栽培が行われ、7月9日から出荷が始まりました。12月までに前年度比132%の640トンを販売し、販売額は同比110%の1億1782万円に上りました。

栽培講習会も行われ、管内の主力品種「夏扇パワー」をはじめとした「夏扇」シリーズの品種特性や、育苗期の管理方法を学びました。



ネギ販売1億1782万円・出荷量は132%増加

ネギの管理方法を学ぶ参加者

稻作部会男鹿支部実績検討会

1月24日(金)、稻作部会男鹿支部の実績検討会が男鹿地区営農センターで開かれ、生産者ら

20名が参加しました。令和元年度の生育経過や病害虫の発生状況を振り返り、次年度の適正栽培に向けた対策を話し合いました。

管内では今年度、高温による生育への影響が見られました。一部地域では昨年度より病害虫が多く発生したため、男鹿地区営農センターは「除草剤の適期散布や航空防除後に2回目の防除を行うなど、対策を心掛けてほしい」と呼び掛けました。生産者からは、今年度の苗の出来や種もみの選別基準などが話題に上がりました。



稻作の生育実績を確認する参加者

【メーカー表彰(やまびこジャパン賞)】▽優秀賞=小田嶋学センター長(雄和農機センター)▽敢闘賞=佐々木康晴職員(同センター)【メーカー表彰(三菱マヒンドラ農機賞)】▽敢闘賞=小田嶋学センター長(同センター)【農技委員会表彰(製品成約受注部門)】▽U-40優秀賞=小田嶋学センター長(同センター)

当JAの受賞職員は以下の通りです。
【メーカー表彰(やまびこジャパン賞)】▽優秀賞=小田嶋学センター長(雄和農機センター)▽敢闘賞=佐々木康晴職員(同センター)【メーカー表彰(三菱マヒンドラ農機賞)】▽敢闘賞=小田嶋学センター長(同センター)【農技委員会表彰(製品成約受注部門)】▽U-40優秀賞=小田嶋学センター長(同センター)

これからも農機サービスの充実に励んでいきます



JJA農業機械パワーアップ運動成果発表大会で受賞

1月25日(土)に秋田キャッスルホテルで開催された「JA農業機械パワーアップ運動成果発表大会」

で、当JAの農機担当職員の成果が認められ、4つの賞に輝きました。また、共同購入トラクターの計画を達成したJAとして、当JAが表彰されました。